

レガ - 合板

—合板歩止り向上の一方策—

神 和 雄

1. はぎ物合板の活用

合板工場に於ける大きな課題の一つとして、矧物合板の処理が挙げられる。矧物合板の国内需要は、全く活発ではない。この問題について、合板販売店の多くは、スライサー合板については幅広の材がないことを需要者も承知しているのであるが、一般の合板ではまだ一枚物がないわけではないから、矧物は好まれず値引されるのであると云う。はぎ物合板は、とに角理屈抜きに需要が少なく、必要以上にけぎらいされている。

何故に需要が少ないかの理由は数多く考えられうるが、その中で最も大きいと思はれる理由は、木目に対する美観上の問題と一枚物に対する執着ではなからうか

はぎ物合板の国内需要が活発でないために、合板工場では、小型量の合板製造をも企図しなければならないが、このことは、必然的に単板や合板の型量の種類をいたづらに多くし、作業の煩雑さを増すこととなるであろう。而して又、小型量合板の需要も、もはや限界に達していると思はれ、且又、合板適材の激減が懸念される現在では、努めて一定の標準型量、例えば、3尺×6尺の如き合板の製造をなし、作業の単純化と合板の歩止り向上を計りうる方法があるとせば、合板工業を将来尚一層堅実なものとする方策の一つとして考えられよう。この様な考えは、現在、特に国内需要の合板製造工場に於ける共通的希望ではなからうかと思はれる。

木目の美観と一枚物に対する需要者の執着は、長い時日にもとづく根強いもので、簡単に之れを修正することは難しいかも知れない。

而し、化粧価値の高い合板の乏しくなった最近に於いては、木肌の美しさを尊ぶ合板の他に、木目や人工的な模様を印刷した樹脂加工紙を接着したり、樹脂焼付塗装を行ったりする傾向が増して来た。

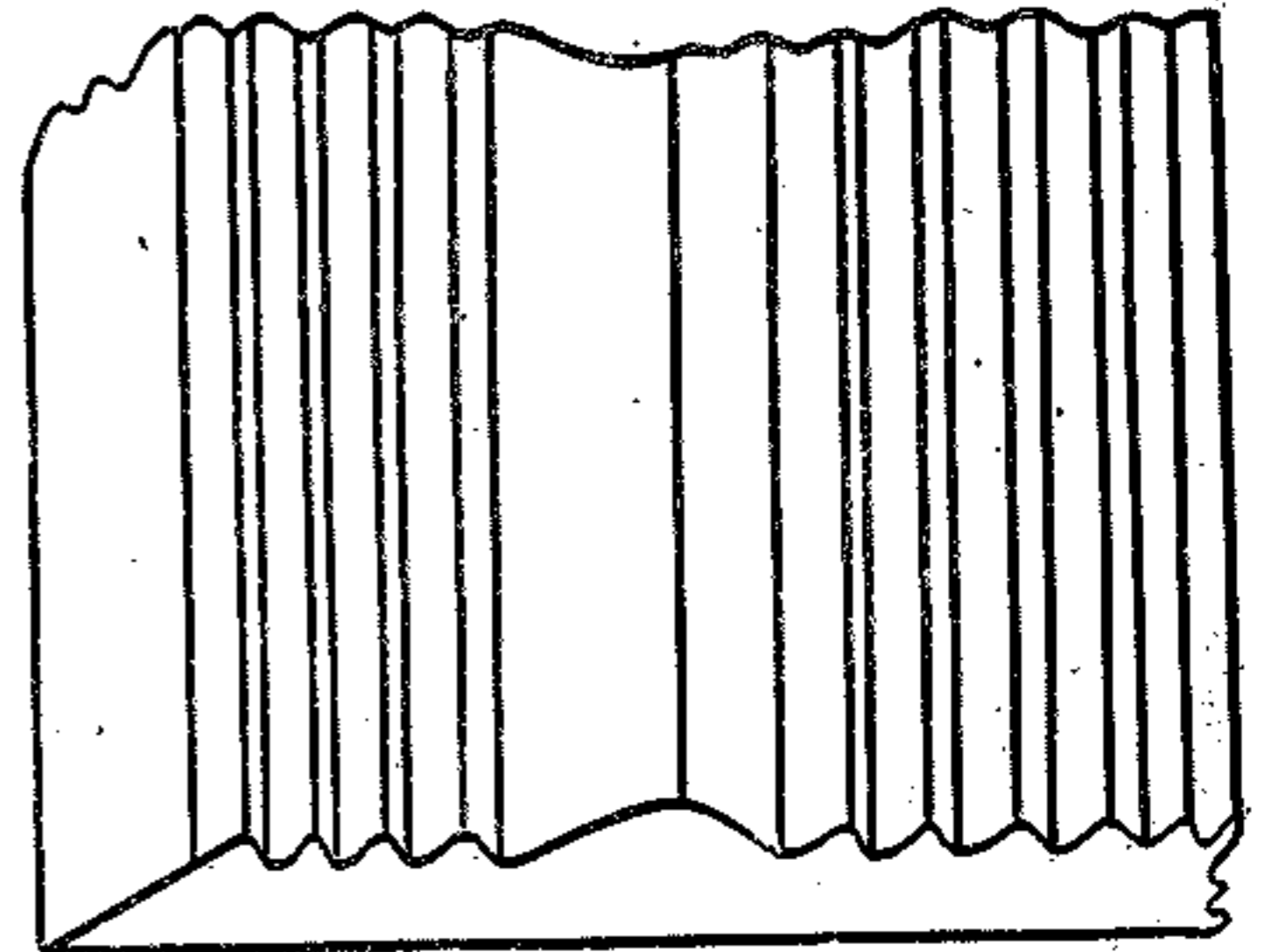
このために、いろいろな種類の下地材が案出されているが、価格や効果の点で今後しばらくの間、合板は他の材料に比し優位を保つてであろうと思はれる。何故なら、構成方法によって狂いの少ない合板が作られるし、下地用としてならば材面の平滑さだけが必要で材面の美観や一枚物でなければならぬ必要がないので

縦はぎ、横はぎ並に欠点修正の技術によって、生産単板のことごとくを下地用の一定型量合板として作りうる可能性が認められるからである。この方法によって合板の歩止りは著しく増加するであろう。工場内の単板の滞貨は一扫され、合板用材の集約利用の必要を生じ、製品の価格を著しく低下させることも可能となるであろう。

2. レガ - 合板の特性・用途

レガ - 合板は、上述の思想にもとづく一例として考えられたものである。

レガ - 合板の製造は極めて簡易である。従来のスクレパー仕上は省略出来るし、自動鉋仕上の良否が表面の効果を左右することとなるのである。



第一図の様に、合板の表面に、不規則又は規則的な凹凸の縞を特殊な鉋刃によって造り出したもので、縦に通った縞がマサ目を思わせる効果を現わしている。

レガ - 合板の素晴らしい特長の一つは、並べて貼る場合は縞があるので継目が目立たず、接合用の金具などで押える必要がなく、極めて単純な美しい面が得られることである。

レガ - 合板のもう一つの特長は、他の材料に比べて表面積がはるかに大きく且つ立体的な感覚を生じ、表面に投射する光線の方向に従って生ずる光と影は、面白く色々に変化して、これを用いる需要者を魅了する美しさを具えていることである。

近代化の風潮は、古い家を新しい家の様に改造する如き傾向が強くなっていることであるが、この様な風潮にふさわしい改修材料の一つとして、且又、商品の飾台、事務室、食堂、洋室等の内壁面、並びに家具等に近代的な魅力を与える材料として好適であろうと思はれる。

レガー合板

合板歩止り向上の一方策

神 和 雄

1. はぎ物合板の活用

合板工場に於ける大きな課題の一つとして、矧物合板の処理が挙げられる。矧物合板の国内需要は、全く活発ではない。この問題について合板販売店の多くは、スライサー合板については幅広の材がないことを需要者も承知しているのであるが、一般の合板ではまだ一枚物がないわけではないから、矧物は好まれず値引きされるのであると言う。はぎ物合板は、とに角理屈抜きに需要が少なく、必要以上にけぎらいされている。

何故に需要が少ないかの理由は数多く考えられうるが、その中で最も大きいと思われる理由は、木目に対する美観上の問題と一枚物に対する執着ではなからうか。

はぎ物合板の国内需要が活発でないために、合板工場では、小型量の合板製造をも企図しなければならないが、このことは、必然的に単板や合板の型量の種類をいたずらに多くし、作業の煩雑さを増すこととなるであろう。而して又、小型量合板の需要も、もはや限界に達していると思われ、且又、合板適材の激減が懸念される現在では、努めて一定の標準型量、例えば3尺×6尺の如き合板の製造をなし、作業の単純化と合板の歩止り向上を計りうる方法があるとせば、合板工業を将来尚一層堅実なものとする方策の一つとして考えられよう。この様な考えは、現在、特に国内需要の合板製造工場に於ける共通の希望ではなからうかと思われる。

木目の美観と一枚物に対する需要者の執着は、長い時日にもとづく根強いもので、簡単にこれを修正することは難しいかもしれない。

而し、化粧価値の高い合板の乏しくなった最近に於いては、木肌の美しさを尊ぶ合板の他に、木目や人工的な模様を印刷した樹脂加工紙を接着したり、樹脂焼付塗装を行ったりする傾向が増して来た。

このために、いろいろな種類の下地材が案出されているが、価格や効果の点で今後しばらくの間、合板は他の材料に比し優位を保つであろうと思われる。何故なら、構成方法によって狂いの少ない合板が作られうるし、下地用としてならば材面の平滑さだけが必要で材面の美観や一枚物でなければならぬ必要がないので縦はぎ、横はぎ並びに欠点修正の技術によって、生産単板のことごとくを下地用の一定型量合板として作りうる可能性が認められるからである。この方法によって合板の歩止りは著しく増加するであろう。工場内の単板の滞貨は一掃され、合板用材の集約利用の必要を生じ、製品の価格を著しく低下させることも可能となるであろう。

2. レガー・合板の特性・用途

レガー・合板は、上述の思想にもとづく一例として考えられたものである。

レガー・合板の製造は極めて簡易である。従来のスクレパー仕上は省略出来るし、自動鉋仕上の良否が表面の効果を左右することとなるのである。

第1図の様に、合板の表面に、不規則又は規則的な凹凸の縞を特殊な鉋刃によって造り出したもので、縦に通った縞がマサ目を思わせる効果を現わしている。

レガー・合板の素晴らしい特長の一つは、並べて貼る場合は縞があるので継目が目立たず、接合用の金具などで押える必要がなく、極めて単純な美しい面が得られることである。

レガー・合板のもう一つの特長は、他の材料に比べて表面積がはるかに大きく且立体的な感覚を生じ、表面に投射する光線の方向に従って生ずる光と影は、面白く色々な変化して、これを用いる需要者を魅了する美しさを具えていることである。

近代化の風潮は、古い家を新しい家の様に改造する如き傾向が強く生じていることであるが、この様な風潮にふさわしい改修材料の一つとして、且又、商品の飾台、事務室、食堂、洋室等の内壁面、並びに家具等に近代的な魅力を与える材料として好適であろうと思われる。

試験部合板課